

脳出血急性期患者における作業療法時間と排泄関連動作練習に関する研究について

当院では、脳出血急性期患者さんを対象に、「作業療法の実施状況と排泄関連動作能力との関係」に関する研究を行っています。

この研究は、これまでに当院で治療やリハビリテーションを受けられた患者さんの診療情報（カルテ情報）を用いて行う後ろ向き観察研究です。新たに検査や治療を追加することではなく、患者さんに新たな負担や危険が生じることはありません。

【研究課題名】

脳出血急性期における作業療法時間と排泄関連動作練習の有無およびその相互作用が排泄関連動作能力に及ぼす影響

【研究の目的】

脳出血を発症した直後の患者さんでは、移乗やトイレ動作、排泄のコントロールなどの「排泄関連動作」が低下することがあります。

作業療法では、日常生活動作の回復を目的として、患者さんの状態に応じたリハビリテーションを行っています。しかし、急性期脳出血患者さんにおいて、「どの程度作業療法を行ったか」や、「排泄関連動作の練習を行ったか」が、退院時の排泄関連動作能力とどのように関係しているかは十分に明らかになっていません。

この研究では、急性期脳出血患者さんを対象に、作業療法の実施時間や排泄関連動作練習と、退院時の排泄関連動作能力との関係を調べることを目的としています。

【研究の対象となる方】

当院に入院し、リハビリテーションが処方された急性期脳出血患者さんを対象とします。2024年4月1日～2026年6月11日までの患者さんのデータを収集します。

【研究期間】

倫理委員会承認日 ～ 2026年7月30日まで

【研究方法】

診療録（カルテ）から以下の情報を収集します。

- ・年齢、性別
- ・脳出血に対する手術の有無
- ・既往歴（認知症、脳卒中など）
- ・リハビリ開始時の神経症状や意識レベル
- ・作業療法の実施時間

- ・排泄関連動作練習の有無や開始時期
 - ・移乗、トイレ動作、排泄コントロールなどの日常生活動作能力
- なお、本研究のために新たな検査や治療を行うことはありません。

【個人情報の保護について】

研究に使用する情報は、個人が特定できないよう匿名化したうえで管理します。研究成果を学会や論文などで発表する場合も、個人が特定されることはありません。

【研究への参加を希望されない場合】

本研究は、過去の診療情報を用いて行う研究のため、患者さんお一人ずつから直接同意はいただいております。

ご自身の情報を研究に使用してほしくない場合は、下記までご連絡ください。お申し出があった場合は、その方の情報は研究に使用いたしません。なお、お申し出によって診療上の不利益を受けることは一切ありません。

【問い合わせ先】

〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院 リハビリテーション科

作業療法士 松本 幸樹

TEL：0166-22-8111

FAX：0166-24-4648